

**武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（第 13 回） 議事要録**

日 時 平成 30 年 6 月 25 日（月） 19：00～21：00

場 所 武蔵野市役所 812 会議室

出席者 委員 13 名、事務局 6 名

小澤（紀）委員長、大沢委員、大谷委員、小澤（里）委員、上吉川委員、木村文委員、佐久間委員、志賀委員、塩澤委員、鈴木（圭）委員、田中委員、村井委員、木村浩委員

議事等 1 エコプラザ（仮称）の機能、空間活用について

～前回グループワークの報告～

(1) 1 グループの意見について（資料 1－1）

(2) 2 グループの意見について（資料 1－2）

(3) 3 グループの意見について（資料 1－3）

(4) 意見交換

2 エコプラザ（仮称）の運営について

3 その他

**1 エコプラザ（仮称）の機能、空間活用について～前回グループワークの報告～**

**(1) 1 グループの意見について（資料 1－1）**

発言者	要旨
委員	<p>資料 1－1 ③のとおり、中心には「対話が進む仕掛けづくり」という 1 グループのテーマがあり、そこから関係するキーワードが載せてある。外観については、縁側やウッドデッキ、外壁にはクリーンセンターのルーバーを取り付け、クリーンセンターとのつながりを持たせるという意見があった。</p> <p>プラットフォームについては、高さのある空間を生かし、立体的に活用したいという意見がいくつかあった。天井から吊るしたり、高さのある立体的な展示物を置いたり、高さを利用したダイナミックな展示ができるのではないかと。また、展示の移動のために人力のクレーンを付ければ、阿佐ヶ谷の商店街に展示している七夕飾りのように、イベントで使ったものを上に収納したり、参加型の大きな展示やワークショップなどの手づくり的な展示に使ったりもできる。広さを生かして、動く展示を設けたり、レイアウトを動く家具で軽く仕切る形にして、常設スペースの他、イベントスペースとして使うこともできる。時計などのレトロなものは残して歴史性を持たせ、それを生かして古い時計をたくさん集めて展示するイベントも開催したいという意見もあった。壁がたくさんあるので、壁面に収納機能を持たせ、新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会で議論されていた素材をストックする棚をつくるなどの意見も</p>

	<p>挙がった。その他展示の仕方については、常設・企画の発想で、高さや広さの両方がある空間を生かし、つながりをつくっている。</p> <p>旧事務所棟では、アーカイブや情報発信、図書スペースのような基本的な機能とエコカフェや相談支援、交流スペースなど、「いろいろな世代と交流を重ねる」という機能がキーワードとなった。「学び」に関しては、実際に環境に関する原理を学習できる施設にしたいという意見があり、太陽光パネルの設置や観察、実験、学習といったキーワードが挙がった。子どもが学びと遊びの両方ができるスペースや、授乳・託児スペース、五感や視覚に訴える展示により、小さい子どもでも興味を持てるようにしてはどうかという意見があった。他にも、行政スペースやバックヤードが施設を管理する上で必要である。</p> <p>内と外をつなぐという視点から、「緑の軸」がキーワードとされ、西側の入口から芝生広場を東西に貫くように、緑の軸を建物の中に通す。風よけ室は温室に利用し、テラリウム、アクアリウム、リビングマシンなどにより、芝生広場まで緑の軸をつなぐ。また、北側の屋根があって風が通る半屋外的な空間には、アウトドアキッチンやピザ窯などをつくる。それと合わせてプラットホームの東側に、縁側のような日よけのあるデッキをつくり、建物の内側と外側をつなぐなどの意見も出た。西側の旧事務所棟の入口や芝生広場では、堆肥づくりやハーブ畑、災害トイレのほか、シンボリックにラボックの風車や、太陽光パネルが回転して発電量が見えるような実験装置をつけてはどうか。外側の壁面も大きいので、プロジェクションマッピングを行い、それを芝生側の大階段で見るような利用方法もあると思う。</p>
--	--

**(2) 2グループの意見について (資料1-2)**

発言者	要旨
委員	<p>はじめに、基本的な考えとして2つの事項を確認した。1点目としては、エコを幅広く考えること。エコクッキングやエコ学習のように、エコは何とでもマッチアップが可能なので、限定しすぎずに考えるということを確認した。2点目は、建物の構造を上手に活用すること。特に特徴的なのは1階のプラットホームで、2階はそのまま事務所として利用しても良いのではないかと、開設当初は手が回らなければ、無理に活用を考えなくても良いのではないかと意見が出た。</p> <p>その上で常設のイメージとしては、人を引き込むデザインと仕掛けづくりが最も重要ではないかということを確認した。そのためには、入口へのアプローチが目立つように、大きなひさしを両側につけて動線を通し、外部からも一定の視野が開けるようなつくり方にしたい。具体的なイメージとしては、外国の老舗ホテルのひさしのようなものが面白い。また、エコプラザは立地上、</p>

自転車利用の中高生がヘビーユーザーになるのではないかと推測した。近隣自治体のフリースペースなども中高生の利用が多いようなので、エコプラザも同じようになる可能性が高いため、駐輪スペースの確保が重要である。さらに人を引き込むためには、周辺施設との一体的な運用も必要と考え、テニスコートやグラウンド、市役所などを利用した方がふらっと訪れるような動線、例えばテニスが終わった後、近くのファミレスでなく、エコプラザに立ち寄れる動線があれば、ある程度賑わいが確保できて面白い。

常設のイメージとしては、アートの利用できないかという意見が出た。プラットホームの大空間を利用したギャラリー的な使い方として、製作工程なども同時に展示しながら、ギャラリーとして見せる。アーティスト・イン・レジデンスという概念で、住み込みをしながら制作物をつくりあげていくような活用手法も面白い。旧事務所棟1階に、ものづくりのワーキングスペースや1 day キッチン、1 day サロン、チャレンジショップといった創業支援、NPOの事務所として使ってもらいイメージで、ミシンの貸し出しやプリンターの利用などの設備を配置した。子育て世代を対象とするなら、ハイハイができるような座敷や芝生があっても面白い。常設が難しければ、可動式という考えもある。

資料1-2②は、イベント使いのイメージを記載している。認知度を上げるためにはイベントとしての活用も必須。ネーミング・ライツなどのキーワードも挙げた。イベントの空間イメージでは、冠イベントを定期的で開催しても良いのではという話があった。例えば「エコプラザ杯争奪戦」など、エコプラザの名前を上手く取り入れて企画を実施するのも面白い。

1階のプラットホームは全天候型で、大空間。いくらでも対応できそうな空間を備えているので、随時使えるような機能は残したい。カフェ型・ギャラリー型、ヘビーユーザーにある程度重みを置いた展示、もしくはふらっと訪れた方向けの展示を多くしたとしても、コンセプトであるメタボリズムの進化・改善していくという考え方で、懐深く、使いながら軌道修正できるように運用体制が整備していければ、幅広い機能を集約できる施設にすることができる。

### (3) 3グループの意見について (資料1-3)

発言者	要旨
委員	このグループでは、外からのアプローチの話、水や緑、エネルギーを中心に話した。例えば雨どいを透明にして、水力発電装置をつけて雨水タンクに集約させたり、レインガーデンをつくって、雨水をためて、水生植物を植えたりする。また、井戸も含めて、水に関係した一連のものを芝生広場の南側に配置する。芝生広場にはいろいろな植栽を設け、ラボックの風車を復活させたいという意見もあった。プラットホームの入口付近には、デッキやパーゴラを配置し、

そこにツル性の植物を植え、太陽光の装置を入れる。太陽光の装置は良く屋上にあるが、屋上では見えにくいので、太陽光パネルをデッキに付けてはどうかという話があった。北側にはどんぐり広場があり、ここに雑木林をつくり、間伐して、薪に加工してピザ窯やキッチンで活用する。北側に既存の樹木などがあれば、雑木林とつながりのある緑をつくりたいという意見もあった。以前は椿を植栽して施設を覆っていたが、今回は見える施設にするため、道路からエコプラザが見えるようにしたい。椿の下枝を切り、見通しを良くすれば、椿を生かせるのではないか。

転入の手続きなどで市役所に来たついでに、ごみ相談などで気軽に寄ってもらうためには、入口を目立たせる、子どもが芝生広場で遊んでいる間に親御さんがお茶でも飲みながらエコの話ができるといった意見が屋外の話として挙げられた。

芝生広場からプラットホームに入ると展示コーナーやものづくりコーナーがあり、旧事務所棟に行けば情報コーナーと相談コーナーがある。動線によって引き込まれるような形が良いのではないか。プラットホームにストックヤードを設けて、前回の会議で紹介したキュッパの棚のように、ハギレやボタン、おもちゃやビーズなどをストックして、ワークショップなど、ものづくりの材料としてはどうか。ものづくりを行う工房として必要な工作道具があり、関連したワークショップができると良い。隣は展示コーナーとして、環境団体のPRや展示、イベントができるような形にしたい。他にも音響やスクリーンとしての利用、壁の使い勝手や天井に吊るすこと、手回し発電、自転車発電、足踏み発電などの発電体験ができることなども、プラットホームの利用方法として考えた。

旧事務所棟側は入ってすぐに情報コーナーを設け、譲りたいもの、譲ってほしいものを掲示する「エコボ」の情報やDVDが見られたり、コピー、印刷、製本ができたりすると良い。PCでの検索や、武蔵野市内にいる学識経験者から寄贈された専門書を集めて見られるようにするなどの意見があった。相談コーナーにはキッチンを併設し、お茶を飲みながらエコについて話せる、相談ができる場やエコクッキングができる場にしたい。

会議後だが、多摩産材でウッドスタート、カーボンマイナス住宅モデルハウス、マンションでも実現可能な高断熱化の紹介などの追加意見があった。

#### (4) 意見交換

発言者	要旨
委員長	発表を踏まえ、大切にしたい機能や必要な機能、それを実現するためにはどうすれば良いか、前回のワークショップの時に言い忘れたことも含めて自由に

	ご発言いただきたい。リビングマシンの言葉の意味など、各グループの発表でわからなかったことや疑問に思ったことも質問していただきたい。
委員	1グループの発表の中で2階の授乳スペースの話があったが、1階が電気室になっている場所だが、2階は使えるのか。
委員	電気室と空調室の場所をどこにするかはこれから検討するので、「子育て中の方が来られるようにするスペースが必要」という意見を尊重したい。
委員長	赤ちゃんがお腹の中にいる時から、お母さんが環境学習を語りかけるところから始まる、という話題もあった。
委員	子どもにやさしいということを共通で挙げていただいた。芝生広場を子どもが遊べるスペースにするというのも良いアイデアだと思う。レインガーデンや雨水タンクなど水関連で考えると、子どもが水遊びのできる場所があるとお子さん連れの人たちがたくさん訪れるきっかけになる。
委員	雨水タンクやレインガーデンなどの意見が出て非常にありがたい。水の活用という意味では、子どもは水が大好きなので、水周りを考えてもらえると良い。プラットホームは大空間をそのまま生かすという意見が多く、非常に良いアイデアと思う。以前水の学校のサポーターの間で、エコプラザの使い方についてワークショップを行った。せつかくの大きな空間なので、コンサートなどもできたら面白いという意見があった。可動式の家具などで大空間を生かす工夫は、とても良いと思った。
委員	どのグループからも、平面の考え方だけではなく、プラットホームの高さをどう使うかという意見が多く挙がっていた。クリーンセンターとエコプラザをつなげる芝生広場の大空間をどう使うかということも含めて考えても良い。 例えば、雨水で洗濯するとTシャツもきれいに汚れが落ちるという話があるので、何枚洗えるかという実験を行い、芝生広場にTシャツをたくさん並べた大洗濯空間をつくっても面白い。空間をいかに使うかをもう一度イメージしたい。
委員長	リビングマシンは、地球の様々な循環を表したもので、以前勤務していた大学では、ペットボトルと藻とメダカを使ってミニチュア版を作成した教員がいた。アメリカの高校では玄関に置いて、地球の原理を説明している。地球がどうできているかを中高生が理解できるように、理科的な発想で教養を身につけるのに役立つ。旧事務所棟の西側の入口を温室的に使い、地球のイメージを表しても良いと思った。太陽光パネルのように現実の太陽を生かすことも重要だが、太陽に関連し、他にアイデアもあると思う。
委員	前回のグループワークでは、芝生の立体的な活用としてソーラーシェアリングを提案した。これは、畑に3mほどの支柱を立て、間隔をあげながら太陽光パネルを設置する手法で、千葉で実施されている。過去の環境省のポテンシヤ

	<p>ル調査では、調査当時のパネル設置可能箇所全部にパネルを設置しても 15%程度しか電力を賄えないという計算だったが、農地を含めると 100%以上賄えることになり、こういう話を含めて伝えられると良い。芝生に悪影響のない範囲でソーラーシェアリングができると、何らかの参考になるのではないか。これが日本中に広められると電力の自給につなげることができる。</p>
委員長	<p>他はいかがか。小学生がここに遊びに来られるようなヒントなどはあるか。</p>
委員	<p>いろいろな意見が出すぎていて收拾がつかない。今は意見を出す時期なので良いとは思いますが、これで小学生を集められるわけではない。もう少し精査して集約する必要がある。今の段階では細かすぎて、何が小学生に良いかがわからない。大人を対象としても少し難しい。</p>
委員	<p>先ほどのソーラーシェアリングもだが、ものがあるだけでは伝えられる情報は少ない。設備や空間、箱など見てわかるものと、次のステップとして「だからどうなる」という説明が必要。設置した仕掛けが面白い啓発になるということだけでなく、ソーラーシェアリングで考えれば、「だからこうすれば国内の電気が全部賄える」といったプラスアルファの伝えたい説明がセットである必要がある。</p> <p>アイディアがたくさん出て、それが発散するのは良いこと。箱としては幅広い層にたくさん来てもらうことに越したことはないので、魅力的な施設にしつつ、エコの部分がどこかで入っていれば良いのではないか。</p>
委員長	<p>共感するコミュニティなど、共感性をどのように実現するか。</p>
委員	<p>どのグループもプラットフォームの高さや広い空間を生かすこと、可動式の家具や仕切りを柔らかくし、あまりつくりこみすぎないことが共通の項目として挙げられていた。エコプラザには、事業として実施することと、来館してもらい、展示や空間を利用して環境について感じとってもらうことの2つの方法がある。この両方の考え方への配慮が必要で、その整理がこれから必要になる。今はそれらが一緒になっているので、わかりにくい部分があるが、整理をすれば見えてくるので、今後の課題としたい。</p> <p>また、共感のつくり方は大事だと思う。例えば、1グループが発表した素材のストックを美しく見せることは、行って見て、まず素敵だと感じる必要があると思う。空間全体にも言えて、2グループの発表でも、空間の中に使う家具などはセンスの良いものを使うという意見があった。入口から共感を生むことが大事だと思う。</p> <p>この施設の運営で大切なのは、利用する人に能動的に活動してもらうことで、そのためにはエコプラザが手をかけすぎない方が良い。例えば、ピザ窯であれば最初からつくりこむのではなく、それを使う人が組み立てるところから始めるなど、提供するものや何かを使ってもらうことについても、手をかけすぎな</p>

	<p>い方が良い。これまでの公共施設は、運営する側がサービスを提供することが多く、利用者はサービスを楽しむだけ。それでは主体的に運営側に関わるといふ発想が消えてしまう。エコプラザでは、利用者も能動的に運営側に気持ちを傾けるような、自分から何かを始められるような仕掛けが必要である。</p> <p>運営側が単にサービスを提供していくと、サービスを受ける利用者という立場をつくってしまうので、最初から両者が一体となって、利用者がどのように関わられるかを考えることが大事。運営には高度な配慮が必要であり、今までにないものが必要となる。</p>
委員	<p>利用する人が手をかけるとなると、あまり面倒だと来なくなってしまうという弱点がある。多くの人に受け入れられるように、バランスを取ることが大事である。運営する側が100%お客様を迎え入れるという姿勢をとるのもどうかと思うし、市民が自分の居場所として考えるのであれば、多少手を伸ばすような仕組みをつくる必要もある。</p> <p>これだけの広いスペースは市内でもなかなかない。空間を細かく仕切らないで、広く使うということは他のグループにおいても共通の意見だと思うので、価値あるこの広いスペースを大事に使えると良い。</p>
委員	<p>共通する意見がたくさんあるので、エッセンスを整理できるのではないか。利用する市民の立場で考えると、常設してほしいものや定期的にほしいもの、不定期や単発で開催してほしいものなど、いろいろ見えてくる。定期的、単発で開催するものは、応用が利くようにつくれば、シンプルな機能としてももう少し整理できると思う。</p> <p>来た人がただ見て帰るだけでなく、クリエイティブな気持ちになって、関わりたくなるような、もう一度来てくれるようなきっかけがあれば良い。</p>
委員	<p>2グループは、非常に大胆な発想で空間利用を考えられているが、ハンモックや可動式の芝生、外壁のボルダリングなどの発想について、もう少し説明していただけないか。</p>
委員	<p>ハンモックは、プラットホームにあれだけの高さがあるので、高いところから眺められるような場所がほしいという意見から出たアイデアである。吉祥寺や三鷹にもハンモックカフェがあるので、それにつられてくる人もいのではないか。</p> <p>可動式の芝生は、赤ちゃんが来てハイハイできる場所がほしいという意見から出た。また、都市のあまり使われてない屋外空間に人口の芝生を敷くと、ピクニックができる。そのような発想で都市空間の新たな使い方を提案する人たちがいるので、そこからヒントを得た。</p>
委員	<p>あっと驚くような発想をぜひ実現したい。</p>
委員	<p>先ほど水遊び場があれば子どもが集まるという意見が出たが、毎日来ること</p>

	<p>ができるのは誰かと考えると子どもだと想定できる。そうした子どもが使うのは何かと考えると遊具であり、その延長線上でボルダリングや芝生の公園、ハンモックなどの機能があれば、毎日来てくれる人が一定層いるのではないかと考えた。</p>
委員	<p>動物というアイデアも大胆である。</p>
委員	<p>資料1-1に書いてある空中収納について伺いたい。収納は限られた空間の中で課題と考えている人も多いが、例えばプラットホームでコンサートを行う場合にイスを並べるが、そのイスをどういう場所にどうやって収納するか、また、リボンやボタンをどう整理すればきれいかつおしゃれに見えるかが気になっている。</p> <p>エコとおしゃれが両立しないケースをたくさん見てきたので、おしゃれときれいな収納と使いやすいことの3つが共存するような収納の仕方を見たい。特に空中収納という言葉が気になった。</p>
委員	<p>阿佐ヶ谷の商店街の七夕飾りや西荻窪の商店街にあるピンクの象のように空中に吊るされているイメージである。</p>
委員長	<p>ワークショップでつくったものを壊さないで置いて、外から見えるように吊るし、展示するというアイデア。</p>
委員	<p>そうしたものを見てみたい。最新の収納家具やその手法、自分の家の活用されていない空間を上手に使う方法などをここで見ることができ、きれいに見せながら整理できる手法などを勉強できれば、主婦にとってもうれしい。</p>
委員長	<p>イギリスの博物館では面白い仕掛けがある。博物館では下を見がちだが、突然上から恐竜の鳴き声を流し、上部に恐竜を展示していた。海外の建物は高さがあるので、そうした使い方ができる。</p> <p>収納はとても大きな課題であり、アーカイブだけでできるかは別の話になる。</p>
委員	<p>アーカイブを利用したくなるような気持ちにする手法があれば良い。</p>
委員	<p>プラットホームの高さと広さを生かす話が出ていたが、長さも50mほどある。先日、日曜美術館で横山大観の「生々流転」が出ており、雲が湧いて雨になって、蒸発するという水の循環の流れが絵になって40mの巻物に描かれている。例えば、水の学校のように水循環を学び、みんなでその巻物と同じ絵を描くようなワークショップなどのイベントを行えば、3ヶ月ほど継続するし、それを展示すれば人も見に来る。</p> <p>同じように、クリーンセンターのイベントでペットボトルを使って大きなワニを作成したが、より大きなものにしたたり、形を変えてみたりしながらやっても良い。こうした循環系のイベントをこの大空間を使って年に2・3回程度やってみても面白い。</p>
委員	<p>ワニをつくった時は、邪魔になるため、イベントが終わったらすぐに解体し</p>



	<p>ないといけなかった。ペットボトルを洗淨して乾かしたり、作業を途中まで進めてもすぐに片づけて、いくつかに分けて収納したりしなければならなかった。自立することができなかつたため、恐竜をつくる案は諦めてワニにしたが、上から吊るせるのであれば、恐竜でも良いという案は出ていた。</p>
委員長	<p>先ほどの巻物の事例は、ヨーロッパではビッグドローという手法でよく行われており、イギリスの博物館などでも白い巻物に絵を描いたりしている。イラク戦争が勃発した時期に訪れたボローニャでは、大きな回廊にみんながサインペンや筆でメッセージを書いていた。</p> <p>こうしたいろいろなことができる空間だという確認ができたと思う。また、美しい収納というテーマも重要である。</p>
委員	<p>空中収納の近くにある「空中造形物隠し場所」とは何を指すのか。なぜ隠す必要があるのか。</p>
委員	<p>空中収納は、北側の半屋外的な空間をガレージ的に使った時に、部品などを隠す表に見せない収納を想定していた。</p>
委員	<p>その他にも、コンサートなどに必要な音響や照明の機材、季節的な展示物などを隠して収納する場所として考えていた。</p>
委員	<p>わざと半分だけしかつからないというやり方もある。極端につくった部分とつからない部分を対比させて、ここから先は参加者に考えてもらうというやり方もある。アイデアが飽和状態になることを回避するため、他の方に考えてもらったり、まだつくっていない状態で公開会議を開催したりしても面白いのではないか。</p>
委員	<p>つくりこみすぎない、手をかけすぎないことの両方をやって、何もいないところを残す。</p>
委員長	<p>こうした時、どうすれば対話が生まれるだろうか。</p>
委員	<p>例えば、見た目がひどいとなんとかしなければいけないという意識が市民に芽生えることもある。大阪の地震でブロック塀の危険性が見直され、「何とかしなければ」という気持ちになるように、エコプラザも「何とかしたい」という意識を市民が持つような仕掛けをつくっても良いと思う。</p>
委員長	<p>それを子どもたちに考えさせる場として、プラットホームは利用できる。段ボールでつくったブロックを子どもたちが重ねていき、これでは倒れるため、控え壁が必要だと体感して、広い空間で子どもたちに体験してもらうということもできるかもしれない。</p>
委員	<p>この会議は大人たちで進めているので、子どもにも発言権を与えて、エコプラザ子ども会議を実施しても面白いかもしれない。</p>
委員長	<p>私の友人が、面白い取り組みをしている。街中にこたつを置くとなぜか座りたがり、日本人の特性からかこたつから会話が生まれる。これを利用して、こ</p>

	<p>の地域に住む人たちの顔がわからないという大学生が、ワークショップを実施した。</p> <p>団地の模型を作成し、声をかけてきた人に自分の家がどの辺りにあるか、赤い色を付けてもらった。そこで対話生まれ、子どもも同等に入ることができた。このような発想があっても良い。</p>
委員	<p>機能や空間、ソフトやハード、運営面、集客方法などいろいろな切り口から提案をいただいた。</p> <p>あとは、ここで何が学べるかが重要で、現在、水の学校が行っているように、連続講座を受けたサポーターが専門性を高め、レベルアップするような形になれば良い。そのためには、コーディネーターの必要性など運営面をどうするかという話になる。それが次のテーマになる。</p>
委員長	<p>次のテーマに進む前に、この話題について他に質問などはあるか。</p>
委員	<p>アーカイブの話はまだ言い足りない部分があるのではないか。</p>
委員長	<p>北海道の札幌市の小学校を活用して子どもの遊び場をつくっているが、そこでもいろいろな収納が必要になる。季節ごとのイベントや行事を考えると、ビデオに撮るなど、それを次に伝える場が必要だと思った。</p> <p>2階部分にパソコンを設置し、過去にどのようなイベントをしたかをチェックしたり、それをどのように膨らませるかを考えたりできるスペースがほしい。クリーンセンターを考える際にもいろいろなアート系のワークショップを実施したが、それらが映像で見られると良い。</p> <p>別の地域では、中学生がまちづくりに参加し、それを大学生が映像化する取り組みをしていた。小学校高学年ぐらいから映像機器を使うことに慣れており、小学校高学年から高校生ぐらいの若い人は表現力があるため、そうした人たちがつくったものも共有していくことも重要である。</p>
委員	<p>アーカイブの機能を最初から備えることが大事だと思う。途中から整備するのは大変なため、最初からアーカイブをつくる想定で、記録を残したい人が蓄積していくことができれば良い。</p>
委員長	<p>けやきコミュニティセンターで見た収納や展示の仕方なども、映像で撮っておくとヒントになる。読みたい本、読ませたい本や、1枚の絵から会話を生じさせることなども2階のコーナーでできると思う。</p> <p>絵本のかえっこに来ていた家族を見ていた時に、対話のない家族がいることに気付いた。対話はとても大切だと感じているため、1グループでは「対話が進む仕掛けづくり」をキーワードとして掲げた。</p>

## 2 エコプラザ（仮称）の運営について

発言者	要旨
事務局	<p>資料2「環境啓発施設の運営形態について」は、昨年運営のあり方について議論した際にお示しした資料を課題やご意見を踏まえて改訂したもので、運営の議論を思い出していただくために提示した。</p> <p>1ページの「マネジメント上の課題」は、人やお金、評価や効果検証など、主に挙げた意見を資料中に記載している。2ページに昨年作成した施設運営に必要な機能の要素を示した資料をコンパクトにまとめた。機能を実現するための管理業務も多くある中で、どのような運営が望ましいか、資料1の中で出ている機能を実現するには、どんな人との関わり方が良いのか、どんな人が関わるとその機能が実現できるのかなどの視点で、今回はお話いただきたい。</p>
委員長	<p>運営形態もいくつかのパターンに分けられる。具体的な業務も2ページに掲載されているが、各パターンの課題やどのやり方が良いか、評価する視点、クリティカルな課題があるのではないかなどをお話いただきたい。</p>
委員	<p>1ページに書かれているキーワードという部分がポイントになると思う。先ほどの発言でもあったように、サービスの提供者と受給者とで分けないように、市民参加や市民提案でしっかりと市民を巻き込める運営業者が誰なのかをまず考えたい。</p> <p>キーワードにあるリスペクトや、地域特性、環境の歴史などと合わせて「武蔵野らしさ」をベースに、市民参加や市民提案を受け入れて、いかに運営ができるかという部分が重要である。例えば、市役所の職員は武蔵野市の歴史などベースとなる考え方を持っているが、市民の巻き込み方などはNPOの方が得意かもしれない。その部分も私はまだ把握していないので、そこを議論できればと思う。</p>
委員	<p>1ページの「直営」の「特徴」の部分にはこの他、「市の事業と連携しやすい」ことが挙げられる。学校などと連携し、何かをする際には、指定管理者にはハードルが非常に高い。直営の部分を残すことで、市の事業と直接つながりやすくなる。選択肢として直営の部分を残しておくことは、立ち上げ時の考え方としてあると思う。</p> <p>最近、専門性の高い公共施設では、最初の5年ほどは直営で運営し、運営経験の蓄積をもとに、次の5年は指定管理でふさわしい事業者を選ぶ手法を取っているところが増えている。直営と言っても、全部直営で運営するのではなく、事業を広げることや市民を巻き込むことなどはNPOの方が長けているため、事業系業務の部分を委託するなど、方法はいくつもある。例えば、長く直営で運営していた美術館が、リニューアルに伴い、施設をPFI事業で建設し、その後の運営は直営とPFI事業者を指定管理者にする形にした。事業の分け方</p>

	<p>としては、市の責任が必要だった部分は直営で行い、リニューアルにあたり新しく始める部分や広げる部分は指定管理者に任せるという棲み分けをしていた。いろいろな考え方があるので、今回もどこに力点を置くかで運営のあり方を考える必要があると思う。</p> <p>管理系業務もどこまで直営でやるのか、一部運営委託をするのか、あるいは指定管理者に定型的な部分を委託するのか。今は、分け方も柔軟にできるので、硬直的に考えることはない。どうすれば、私たちが考えている内容が実現できる運営体制ができるかを検討することが重要である。</p>
委員	<p>公園の指定管理者をよく見ているが、課題となるのは、5年ごとに業者が替わることで、良い管理者だと思っても、5年経つと次の管理者がプレゼンテーションで選ばれる。地域とのつながりを持っている指定管理者であっても、そのつながりが切れてしまう。随意契約で長く続くのは良いことではないが、大きい組織やNPOの指定管理者がやるのが良いのか、あるいは施設のハード面の管理をある程度行政がやるのであれば、運営の中身は手を挙げた団体が参加できるような連絡会の仕組みをつくり、そこに市民や地域の企業が意見できれば、意外と新規参入や若い人がつくった団体が参入しやすくなる。そうしたやり方も良いと思った。</p>
委員長	<p>昔、関西のNPOの代表理事をしていたが、その理事の中に企業の方や教育委員会の教育次長も参入しており、ネットワークを組んでいた。</p>
委員	<p>NPOというと市民の集まりをイメージすると思うが、市民だけではなく、市役所職員のOBや教育関連の方たちを含めたNPOもある。既に経験を積んだ方たちが入るのは安心感があり、任せやすいと思う。</p> <p>また、運営費を抑えるためには、ある程度自立して安定できるシステムを考える必要がある、民間の知恵もたくさん必要になる。企業や事業者なども上手に取り込みながら、市民として見ていて安心して任せられると思わせるような組織の運営を考える必要があると思った。</p>
委員長	<p>ある施設では、非常に硬直化したプログラムになっているところがある。委員会と小中学校の校長先生の会議とを連動させているが、見えない部分もある。どれだけ実施しているかは見えるが、本質的な学びの部分が評価軸になかなかならない。以前地域で活動していた人も高齢化して、あまり参加型にならなくなってしまったという課題も出ている。</p> <p>そうした意味では、武蔵野方式を考えれば良いと思う。PFI方式がどこまで可能かを調べてみないといけない。行政との補完性の原理という哲学をきちんと抑えておかないと、すぐに高齢化し、硬直的になってしまう。</p>
委員	<p>資料2で整理されているのは、一般的な特徴で、最終的には「人」に頼る部分があり、誰がやるかで全く変わる。運営する人がどれだけリーダーシップを</p>

	<p>発揮できるか、運営の能力やスキルがあるかで変わること考えると、ある程度、具体的な人や団体を思い浮かべないといけない。一般論化すれば武蔵野市としてふさわしい形をまとめられると思うが、実際にそれをやる人がいるかどうかを見ておかないと、合わなかったりスタートが上手くいかなかったりすることが心配である。</p> <p>環境全般を扱う団体が武蔵野市内にはないかもしれないが、遠くから専門家を呼んで揃える以外のやり方もある。環境全般について扱えない代わりに、力を入れる分野を決めるやり方でも良いかもしれない。具体的などころから立ち上がりを考えるようなやり方も良い。</p>
委員	<p>私自身も活動の中で「人」が重要だと感じている。具体的にどういう形でやれば良いのか、正解かがまだわかっていないので、一緒に考えていきたい。</p>
委員	<p>直営や指定管理委託にするにしても、職員の規模や内容で決まってくる。多いとこちらが、少ないとこちらが適しているなど、どの程度の人が携わるかによってイメージが変わってくる。そうしたイメージがないと、どっちが良いかなどの二択ではなくなる。どうなるかはまだわからないと思うが、道筋などはあるのか。</p>
委員長	<p>経済的な保証がされている組織と、自分たちで稼ぐ必要のある組織とでは、やり方が全然違う。いろいろなイベントをやるなど、初めから大きいことは目指せないと思う。</p> <p>離島の小さい学校のイメージをすると、その人が持っているキャパシティやしなやかさなどが、組織運営には重要である。具体的なイメージは出せないが、小さい学校では1人の役割を固定してしまうと、運営ができない。常に自ら全て専門的に知る必要はない。勉強してくれる人、情報を得てくれる人、そしてそれを対話型に進められる人が大事である。</p>
委員	<p>この会議の意見がどのくらい尊重されるのか。いろいろな意見を聞いている段階で、運営形態をどうするかはまだ決まっていないと思うが、市の考えがあるのか気になる。</p>
委員	<p>市としても皆さんの意見を聞いて、まとめる段階になってきた。</p> <p>人数の問題は、内容による。市の事業と連携しやすいというメリットについては意見のあったとおり。コンパクトなどころから始めるというのも重要と思う。私個人の意見だが、緩やかにやろうという意見や考えが多い中で、かっちりと決まった形の指定管理では、武蔵野市の地域性などとは、マッチしないのではないかと思う。市民との接点が重要な要素であり、地域をつなぐコーディネーターとなるような人が望ましい。最終的には人で決まるが、人やふさわしい団体を手配できるのかは、まだ答えが出ていない。</p> <p>本日話し合った機能や空間の中で、最初にどこまでできるか、最初はどこか</p>

	<p>らスタートするのか、また、ご意見のように途中までつくって、あとから増殖させるという手法もある。共通した理解だと思うので、どういう人に運営をさせたら良いかという答え探しは次回できれば良い。そうすることで運営の形態が見えてくるし、市としての提案もできる。</p>
委員	<p>資料1-2①の左上にある、「運営者の顔が見える」という要素は重要である。2・3年ごとに異動になる市の職員がその立場になるというのは考えにくい。仮に直営であっても、5年くらい続けられる人がいないと、地域とのつながりができない。直営にして嘱託職員に任せるのか、指定管理者に任せるかはこれから考えるが、運営者の顔となるような人で、聞く耳を持ってくれるような人がいないと、エコプラザが上手く機能しないのではないかな。</p> <p>また、資料2の「業務例」について、私の知っている直営と指定管理、あるいはPFIで運営している公共施設の場合、管理系業務の労務や総務、財務などの管理は直営で行い、建物・設備の維持管理や窓口、利用申請・予約、案内などの対応は、直営の中で業務委託するか、指定管理に入れて行うのが一般的である。事業系業務はその公共施設が何を目指しているかによって切り分けが変わるが、良くあるパターンとしては、情報伝達は市が不得意な部分であるため、それが得意な指定管理者としっかりと連携をして行うことが多い。あとは市が一番大事に思っている部分や市の事業と連携をしている部分に関しては直営で行い、それ以外の部分は指定管理に任せるという切り分けをしているところもある。直営であっても市の職員が直接行う部分と、委託する部分があるが、大体単年度で契約することが多い。資料2の課題の部分に記載している「運営が仕様書に縛られ、自由度が少なくなりがち」というのはそのため起きてしまう。その反省があって指定管理制度ができて、何年かは民間に委託し、民間のノウハウを活用するという考えになった。指定管理の場合は3年、5年の期間で、性能発注式の仕様書にし、民間の自由度を持ったやり方ができる。それがPFI方式であれば15年や30年などの長い期間で実施できる。指定管理委託まで含めて、「運営が仕様書に縛られがちになる」というのはミスリードになると思う。</p> <p>考え方としては地域性を大切にすることと、市民参加や市民提案の部分であり、そこは武蔵野市が得意とする部分である。その部分をどういう形式で、どういう運営形態にして生かすことができるかは大きなポイントである。指定管理と直営の長所を考えて吟味した方が良い。それにあたり、これから何をするか具体的な中身の整理に加えて、他の施設がどのように業務を切り分けているか参考にできれば、わかりやすくなるのではないかな。</p>
委員長	<p>クリーンセンターの建て替え時の会議から、いくつかの施設の運営管理形態については整理している。それを踏まえて今回の資料ができています。先ほど話</p>

	に出た美術館の話もあり、もう少し探る必要がある。
委員	どのように切り分けるかをもう少し整理する必要がある。
委員	一般的な施設での整理というよりは、今回のエコプラザを考えると、直営でも指定管理でも、市民や委託者からの提案などの幅がどう捉えられるかは、市のスタンス次第ではないか。一般論よりも、資料に記載されているコレクティブインパクトのとおり、行政や市民団体が共通の目標を持って、同じ立場で同じ目標を目指して頑張るかだと思う。武蔵野市の二酸化炭素排出量を削減するために、市が得意とする分野とNPOが得意とする分野を分担するという発想もある。それを考慮すると資料2の1ページに違和感を覚える。
委員	コレクティブインパクトを追及するのであれば、枠にとらわれないというのはそのとおりだと思うが、わかりづらいので、委託などの枠組みから考えた方が、整理しやすいのではないかと。 委員の言うように、人が大切に、形式にとらわれず、人が良ければ、その枠や垣根を越えてできる人は、市役所内や民間のNPOでもいると思う。市役所内で5年から10年、その業務に特化してできる人がいれば理想的である。市役所内の人事ではやりたい人が手を挙げられるような仕組みになっているかも気になる。
委員	資料2の1ページ右端にあるキーワードは事業系業務だけではなく、管理系業務にも関わる話である。生活との接点やつながり方、この施設に来てくれた人との関わり方はとても大切である。窓口や案内、利用申請や予約などは直接市民と触れ合う場所なので、キーワード全体にかかる話である。 そうすると、窓口や利用申請などは、単年度の業務委託を毎年更新するもので良いのかという話にもなる。事業はエコプラザが市民に向けて発信するものだと思うが、施設を利用することで、感じてもらう部分も大事である。
委員長	基本的には行政であろうと、市民への委託であろうと、相乗効果を生み出す仕組みをどうつくるかにかかってくるかと思う。それを武蔵野方式として、どうつくり上げるかがエコプラザの機能を生かすことだろうと思う。
委員	「お金を集める仕組み」と記載されているが、どのくらいの自立を目指すのか。運営費用などは、ずっと横ばいで良いのか、あるいはコストを縮小しながら人を呼んで収益を上げるようなことも考えているのか。
委員長	まだそこまではわからないが、やり方だとは思う。少しこの辺りを整理して次回の議論につなげたい。

### 3 その他

発言者	要旨
事務局	「エコマルシェにおけるアンケート調査結果」については、同時に募集した

	<p>プラットフォームの活用と合わせて次回報告を行う。</p> <p>「次回以降の会議日程」について、今回は予定通り運営についてのグループワークを行う。</p> <p>ニュースレターについて、委員の皆様にご意見、ご協力いただき、平面図やレイアウトが見やすくなった。来週からの配布を予定しているが、配布部数の希望があれば事務局まで連絡をいただきたい。</p> <p>環境市民団体のアンケートについてもたくさんのご意見をいただいた。現在送付先の最終確認を各課に依頼しているので、確認が取れ次第送付する。</p> <p>資料4の議事要旨については、グループワーク前後の主に模型の説明やその時の質疑応答をまとめている。何かあれば一両日中にご連絡をいただきたい。</p>
委員	<p>ニュースレターは図書館やコミュニティセンターに配られるとのことだが、地域への配布は考えているのか。全市民的な周知が目的なら、予算をとって全戸配布すべきではないか。</p>
事務局	<p>ニュースレターの検討時期が遅かったため、今年度の予算要求には反映できなかった。</p> <p>検討した内容については、「市の基本的な考え方」として9月に市報などに掲載し、パブリックコメントを募集する予定。</p>
委員	<p>ニュースレターに限らず、ここで話していることを市民に広めていきたいということであれば、市報などの小さい記事でも良いので、頑張っているいろいろなところで表現をしてほしい。</p>
事務局	<p>9月のエコマルシェにおいても、パブリックコメントをいただくことを検討している。なるべくそうした方向で周知したいと考えている。</p>
委員	<p>次号はいつごろ発行の予定なのか。</p>
事務局	<p>7、8月で調整中である。</p>
委員	<p>コミセンのニュースを配布しているところであれば、一緒に配布できるコミュニティセンターはいくつかあると思う。</p>
委員長	<p>いろいろと意見をいただいたが、アイデアを出していかないといけない。次回またよろしくお願ひしたい。</p>